

## リンパ節委員会報告

委員長 森 武生

～第8版改訂に向けて～

### 1. 記載変更項目

- (1) R0～2と根治度ABCの関係を図で説明する。その際にclinicalかpathologicalかを明記する。
- (2) 中結腸動脈（右枝、左枝）となっている記載を独立させて、中結腸動脈右枝、中結腸動脈左枝とする。
- (3) 直腸上部と下部は領域リンパ節がはっきり異なるので、上部下部と分けて、領域リンパ節を明記する。
- (4) TMNとの整合性を考えて、肝転移陽性例はM1とし、M1(H1curB) ,M1(P2curC)の様に記載する。

### 2. 検討項目

- (1) 直腸間膜内リンパ節転移例のn1とn2の予後を各施設で調査し、側方転移陽性例の予後と比較する。
- (2) 結腸がん切除範囲の図ABCの状態の頻度とその際の中間リンパ節転移と根部リンパ節転移の頻度を検討して、5－10cmの結腸切除範囲の規定を臨床に即したものとするように検討する。
- (3) ICD10とICD0を規約内に採用することを前提に、両者の比較をする。
- (4) 直腸の切除標本において、従来の長軸方向への切り出し方法以外に短軸方向（輪切り標本）への切り出し法を考慮して、CRMの位置付けを検討し、局所再発との関係を調査する。